



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第21号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2011-10-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73506
Type	journal
File Information	DRFmonthly_21.pdf



月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第21号

No.21 October, 2011

【特集1】 ICOLC Europe 13th Meeting

【特集2】 平成23年度第1回機関リポジトリ新任担当者研修（広島会場）レポート

<トピック>・教えて！Dr.F・OAW2011オンライン座談会

特集1

ICOLC Europe 13th Meeting

9/18-21にイスタンブールで開催されたICOLC（国際図書館コンソーシアム連合）第13回ヨーロッパ会合について、参加された土屋俊先生より寄稿いただきました。



土屋俊

(DRF国際連携WG・大学評価・学位授与機構)

Istanbul

Turkey

月

刊DRF』にICOLC(International Coalition of Library Consortia)を話題にした記事が掲載されるなどということは本来あり得ない。前者は所詮機関リポジトリ関係者の集団であり、後者は所詮電子資源ライセンス関係者の会合だからである。しかし、今回トルコのイスタンブールで9月18日から21日まで開催された第13回ヨーロッパ会合(このところICOLCは、春は北米で、秋はヨーロッパで交互に開催している)では、第5セッションは“SPARC, COAR and OA issues”という話題を取り上げ、最終日にあったグループ討議では、“Future of Institutional Digital Repositories”について小人数に分かれて議論が行なわれた(写真参照)。

な

ぜ、ライセンス関係者の会合がリポジトリに関心を示すようになったのだろうか。第一に指摘できることは、これがヨーロッパ主体の回であったということにある。ヨーロッパにおいては、ドイツを除けば、電子資源ライセンスの仕事は国単位で行なわれていると大雑把に言える。他方で、研究成果公開のためのリポジトリの構築も、イギリスを除けば、国が大きく関与している。このような事情が、図書館の関心事として、電子資源の利用環境の整備をすることに当面の課題を設定している図書館コンソーシアムとして無視できなくなったということができる。ちなみに、このような動向は、おそらく原因は別であろうが、現在、アメリカ合衆国でも起きつつあると言ってよい(ただし、図書館カルチャーをかなり共有するカナダでむしろヨーロッパ的、ドイツ的展開になっていることは興味深い)。コンソーシアムにとっては、電子資源が無料になれば、支払い額が減るので単純に楽になるはずであるから、当然、リポジトリ構築と相互運用可能性を推進することはいいことであると判断しがちであり、この会合の出席者もそう考える人たちは多かった。しかし、一方で発言の中では、出版・流通に要する総コストは、購読料という形でコンソーシアム経由の支払い額決定にしても、リポジトリ構築、オープンアクセス誌転換・創刊にしても、出版する量が増えればそれにともなって増大するということはわれわれが理解するようになったという認識を指摘する意見も出ていた。このことは、ライセンスのコミュニティとリポジトリのコミュニティがより深く認識を共有する必要がある段階に達していることを示唆している。

筆

者が参加したグループ討議では、このクラウドの時代に、そもそも機関ごとにリポジトリを作ることが正しい戦略であるのかということに議論が集中した。筆者も、この展開はある意味で当然であるという方向で意見を述べたが、もちろん議論は紛糾し、あっという間に時間切れとなってしまった。

開

催校となったIstanbul Bilgi大学は、創設40年程度の新しい大学であり、London School of EconomicsとLiverpool大学との連携プログラムがキャンパス内のそここに掲示してあった。トルコを含めたヨーロッパの教育、学術での一体化は、ユーロの動向の如何にかかわらず急速に進展しているように窺われた。次回のICOLCは、来年春に北米のデンバーで、また来年秋にはオーストリアのウィーンで開催される。今年、ワシントンD.C.で開催される北米のSPARC主催の会議がBerlin9と題されることから、これらふたつのコミュニティの接近は進むと思われるので、これから両方向に注意を向けることが必要である。



第8セッション Lightening Around Talks (20日 13:30-14:30) の1コマ



第12セッション グループ討議 (21日 10:00-10:45) の1コマ (左から二人目が筆者)

撮影：柴田育子・今村昭一 (JUSTICE事務局)



平 成23年9月8日から9日の二日間にわたり、広島大学中央図書館ライブラリーホールにて、機関リポジトリ新任担当者研修が開催されました。昨年までのポータル研修からボタンを受け継ぐかたちで開催された影響もあってか、未構築機関も含め多くの関係者の注目を集めました。特集2では、この記念すべき第1回目の研修の様子をレポートします。

→ プログラム

オープンアクセスと機関リポジトリの概要



三根慎二（三重大学）

科学研究活動と学術コミュニケーションに今、何が起きているのか？ 大学図書館と機関リポジトリの関係について解説。

機関リポジトリの構築



吉松直美（九州大学）

機関リポジトリ構築にあたり計画、準備、起動、運用について、九州大学の事例を踏まえた解説。

広報・コンテンツ収集



永井一樹（兵庫教育大学）

「なぜコンテンツを集めるのか」「どんなコンテンツを集めるのか」「どうやってコンテンツを集めるのか」という視点から実例を紹介。

優良事例の紹介



濱知美（広島大学）

広島大学学術情報リポジトリの概要をはじめとした、各大学の優良事例の紹介。

模擬プレゼン



北村多樹子（高知工科大学）

教職員懇談会を対象に行ったリポジトリ開始のお知らせと、コンテンツの提供をお願いする模擬プレゼン。

著作権概論・実習



中山知士（筑波大学）

機関リポジトリに関する著作権の概要講義と、著作権ポリシーの確認方法についてのSCPJやSHERPA/RoMEOを利用した実習。

メタデータ概論



深川昌彦（山口大学）

メタデータとは何か、OAI-PMHの仕組みと利用方法、内部メタデータ、外部提供メタデータの違いoai_dcやjunii2のクロスウォークの設計について解説。

コンテンツ登録実習



森保信吾（広島工業大学）

UsrCom環境のDspace1.4を利用したメタデータの入力、ファイルのアップロードといったコンテンツの登録実習。

機関リポジトリの公開



森いづみ（NII）

機関リポジトリ公開後の取り組みや、サービスプロバイダの視点からデータプロバイダが留意すべき内容について説明。

グループ討議・発表



コーディネータ 上田大輔（広島大学）

5名ずつの6班で、研究者へコンテンツ提供を依頼する発表資料の作成と模擬プレゼンテーションを実施。

→ 会場ではこんな質問がありました

Q. 研究者へどのようにアプローチすればよい？

A. オープンアクセスに好意的と思える教員には、安定した保存、提供ができるメリットを強調する。また、機関リポジトリを知らなくても、自身の研究成果を広く一般に公開したいと考えている研究者もいるはず。標準的な方法はないので、地道に機関リポジトリのメリットを伝えていくべき。

Q. コンテンツの削除の要望があった際、どのような点に留意すべき？

A. 判断が難しい事例があったため、コンテンツの公開、非公開は著者の判断でできるように運用指針を調整した。ただし、コンテンツの安定した提供のためにも、削除については、委員会が協議し決定するようにしている。

Q. 広報活動について失敗談があれば

A. 失敗談…というか、研究者が自らリポジトリに関心をもってコンテンツを提供してくれることが時々あるが、忙しさからすぐ手を付けられず落胆させてしまったケースがある。迅速に対応することが大切。

Q. 学会に著作権の譲渡があった場合は、学会の許諾があれば登録OK？

A. 実際は図書館が代理で著作権処理の手続きを行うとしても、事前に共著者も含めた著者に公開の許可を得ておくのが基本。

Q. 著作権の一部譲渡とはどのようなケース？

A. さまざまだが、複製権、公衆送信権をはじめ、著作権の何条から何条までといった、個別に指定した譲渡が考えられ、学協会や出版社のホームページなどで範囲を確認できる場合もある。

参加者から寄せられた声

- ・講師や広島大学のスタッフの方が皆さん親切で非常に過ごしやすいかったです。懇親会やグループ討議で他の方と交流する機会もありとても有意義でした。これから少しずつリポジトリの実務をやっていけるよう、さらに研鑽を続けていきたいです。ありがとうございました。
- ・著作権の実務とパワポの著作権の質問のレベルがはなれ過ぎていて辛かったです。
- ・すごく勉強になりました。明日からの実務に活かせるような気がします。自分のモチベーションの為に他大学の方々や講師の方にお会いしてお話を聞くことは刺激になります。プレゼンの講師からの質問はドキドキでしたが。
- ・凝縮された研修でとてもためになった。学内でも共有しておきたい情報ばかりだった。
- ・時々、分からなくなりましたが次の講義で解決したり、別の講義で分かったりと・・・うまく講義が重ならないようになっていて助かりました。
- ・教員、学生への説得について失敗談、成功談などがあれば、もっと聞きたいと思いました。
- ・機関リポジトリ初任者が必要な知識、技術事項が網羅されており大変良い研修会を有難うございました。実習形式の講義・研修が多いほうが内容が頭に定着して身になったように思いますので、割合を多くしていただけると更によくなると思います。

モチベーションや
コミュニケーション能力を大切に！



懇親会も賑やかでした！



閉講式挨拶。
(甲斐副図書館長(広島大学))

- ・研修全体がとてもあたたかい雰囲気、親しみ深くほっとしました。自館に帰って、今後困ったことが起きても相談できる場があると思うと、とても心強く感じました。本当に有難うございました。
- ・講義が多かったですが一つ一つの講義の時間が短いので、いろいろな種類のお話を頭を切り替えながら聞けるのは良かったです。グループ討議は、リポジトリだけでなく発表のノウハウも学べ良かったです。
- ・2日間(1日半)集中して勉強することができました。グループ発表については今後の参考になる発表ばかりでした。今後に役立てるようにしたいと思います。
- ・カリキュラムの量、内容ともにおおむね良かったと思います。ただ、グループ討議が「学内向けプレゼン」という狭いテーマだったため似たようなものになったのが少し残念だった。リポジトリについて自由に討議できるような研修があれば是非、参加したい。
- ・概論から実習までリポジトリに関する事が学べました。今まで本学では1担当者に任せきりだったので、これをきっかけにチームでリポジトリの運営、コンテンツの充実といった方面に進んで行けたらと思いました。ありがとうございました。
- ・短時間で効率よく学べました。今まで知らなかったことばかりでなく既に知っていることも整理でき、よりしっかり理解できました。スタッフの皆様、2日間楽しく学べました。本当にありがとうございました。

懇親会では、こんな素敵な俳句も
誕生しました！

修了証書第1号！



浅岡宏信さん(佐賀大学)

秋高し
翼ひろげて
リポジトリ



松本グループリーダー
(広島大学)

今後の研修予定

ご好評の新任研修、初開催の中堅研修。どうぞ期待！

10/6-7	機関リポジトリ新任担当者研修(NII会場第1回)
10/20-21	機関リポジトリ中堅担当者研修(九州大学)
11/21-22	機関リポジトリ新任担当者研修(NII会場第2回)

いずれも参加申込受付は終了しました。

教えて！
Dr.F



**Q:日本がSCOAP³に参加するというプレスリリースが流れました。
これってどういう話ですか？**

<http://scoap3.org/news/news87.html>

SCOAP³とは、高エネルギー物理学分野のオープンアクセス(OA)誌出版をめざすコンソーシアムのこと。「光より速い素粒子」で今メディアを賑わせておるあの欧州原子核研究機構(CERN)が中心となって行っているプロジェクトじゃな。かねてからSCOAP³は日本へ熱いラブコールを送っていたんじゃが、ようやくそれに応えるかたちで、今回高エネルギー加速器研究機構(KEK)、国立情報学研究所(NII)、国公私立大学図書館協力委員会が合同で参加に関心があることを表明することになったのじゃ。

これまでのOA誌というのは「創刊誌」がメインで、その出版費用は「著者が負担」というモデルが主流じゃった。BMCやPLoSなどの新興勢力が主導しておったが、今日では商業出版も参入し展開してきておる。これに対しSCOAP³のターゲットは、European Physical Journal C(Springer)やPhysical Review Letters(APS)などの「既存の有力誌」なのじゃ。しかも、各国の図書館や研究機関等がこれらの雑誌購読費用を転用する形で「共同出資」することにより出版コストを支えるというビジネスモデルを採用しておる。今回日本の参加により、オープンアクセス誌刊行に必要な年間経費1,000万ユーロの約8割が確保される目途がついたようじゃ。重要な一角が出そろったことで、SCOAP³は次のフェーズである入札プロセスに進むことになったのじゃ。今後の動向が気になるところじゃぞ。

ところで、SCOAP³が実現した暁には、OA化の2つの道、Green、Goldのうち、研究機関が研究機関のアイディアで引っ張るGoldの革新的なモデルとなるわけじゃな。他の分野でも進んでいくんじゃろか、注視していかんといかんの。ちなみに、こんな風にOAが進んでいくと、各出版社のパッケージ購読料金はどの程度ディスカウントされるんじゃろなあ。ふおっほっほ。

オープンアクセスウィーク

2 0 1 1

が今年も気づいたら終わってたなんてことがないように、
1ヶ月を切った今からでも機関リポジトリの担当者である
私たちにできることはなにかについて考えるための

オンライン座談会



永井: 間もなくOAW(オープンアクセスウィーク)が始まりますが、OAWを対岸の火事と思っている人は少なくないと思います。テーマカラーが炎色だけに。しかしながら、(自戒を込めていうと)機関リポジトリ(IR)にとって「対岸」なんて言葉本当はタブーだと思うんですね。というのは、IRというのは機関というローカルな場所での活動なわけですけど、それに対するセントラル(彼岸)がありません。ローカルばかりが実体的(主人公的)に点在して、NACSIS-CAT/ILLのようにそれをまとめる中心というか全体がないというのが特徴ですよね。そういう意味で、NACSIS-CAT/ILLが百貨店的であるとすれば、IRは商店街的だと思うんです。

で、OAWは、年に一度商店街を盛り上げるために行うお祭りのようなものだと思います。各店舗は、「従属的」にはなくて「主人公的」にこういうお祭りにコミットする。そこでは店の規模の大小なんてあまり問題にならないと思うんです、なんせお祭りですからね。本日お集まりの皆さんには、ぜひ商店街に店を構える店主の心意気で臨んでいただきたいと思います。で、標葉先生には、商店街を通るお客さんの視点(研究者の視点)で、この商店街のお祭りの盛り上げ方についてご指摘いただければと思っております。という長い前置きで恐縮ですが、今日はよろしくお願いします。(↓)



谷本: えっと、OAってリポジトリとセットで話されることが多いのですが、本学(神戸外大)のように、まだリポジトリのないところは、毎年のOAWに参加したいなー、でもリポジトリないしなーっていう状態なのです。でもお店が開店する前に広告をうつっているのは、商売ではよくあることなので、宣伝のつもりで、去年はOAWに先生に突撃インタビューをしました。

永井: 今年は?

谷本: 今年もインタビューをしたいのですが、突撃ではなく、もっとちゃんとお話をうかがいたいと思っています。それと、OAって気付いてないだけで、多くの人が恩恵にあずかっていると思うので、学生とか先生に、これも、それも、あれも全部OAなんだよって伝えたいなあと思っています。

永井: インタビューといえば、標葉先生が京大時代にKURENAIのインタビューに応えられてますね。http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/wordpress2/index.php?p=40

インタビューを受けるのって、研究者にとって正直どうなんですかね?

標葉: 私の場合、人文・社会科学系で実験系ではなかったのと、リポジトリのユーザーだったこともあって、インタビューを受けるのは全然アリでした。ほかの研究者にとっても同じかどうかはちょっとわかりませんが、でもそこまで時間のかからないものであれば特に嫌がる人も少ないんじゃないかなあと。実験系の方だと、時間を実験そのものに拘束されることも多いので、少しだけハードルが高いかもしれないなあと思います。

米谷: アンケートのような定型の質問だとお願いする方も回答する方もやりやすいでしょうか。あんまりおもしろくないかもしれませんが。ハードルは低いかな。

谷本: アンケートは、きっかけ作りとしていいですね! ごくごく簡単なアンケートをして、反応の良かった先生にお話を聞かせてもらうとか。

永井: なるほど。アンケートにOAWのバナーとか広告つけて、週中に一斉送信する。

米谷: そういうアンケートだと反応は薄いと思われます。(うちでは)あんまり効果がなさそうです。

永井: 標葉先生は、反応しないでしょうか?

標葉: 私だと反応しますが…。確かに反応してくれる方は、どちらかと言えば少数になってしまうかもとも。でも、反応してくれる人は、そのあとのインタビューも受けていただけるかもとも。京大の時も気になっているのが、教員の中でもリポジトリをよく分かっていない(知らない)というのもあるのかなあと。

米谷: ある程度認知されていれば別でしょうが…。アンケートに答えてもそれがどういうことに使われるのかわからなければなかなか協力は難しいかと。それなら最初からインタビューの方がいいかも

しれないと思ってしまいます。

標葉: 実は、教員の方も、メリットを理解していないんじゃないかなあと思っていたりします。例えばリポジトリに原稿を登録したりするのは、実は(科研費などで求められる)アウトリーチ活動の一環にもなるのですが、多分あまりそういう意識はないんじゃないかなあと。そこは、お互いにとってもったいなあと。

米谷: 実際教員にとってメリットってそんなにあるんでしょうか? 説明するときはこんなことができますよ(ありますよ)と言っているのですが、今ひとつ(私自身)懐疑的(笑)

永井: そうそう。標葉先生のリポジトリへのかなりのシンパブリが正直不可解ですね。

谷本: メリットがなくても、知の循環というか、社会への還元とうことに対して、生産者でもある先生方の関心ってそれほど高くないのでしょうか?

標葉: 私の場合は、科学知識の「公共性」みたいな話を研究で扱っているせいは多分にあるかと〜。

1

2

3

4

5

6

① 谷本千栄
(神戸市外国語大学)

② 標葉隆馬
(総合研究大学院大学)

③ 米谷昌代
(京都教育大学)

④ 光森奈美子
(大阪府立大学)

⑤ 近藤喜和
(奈良先端科学技術大学院大学)

⑥ 永井一樹
(兵庫教育大学)

永井:「公共性」というのが、リポジトリ投稿へのモチベーションになる先生って結構少数派なんじゃないですかね。公開による可視性の向上、引用可能性の増大はモチベーションになると思うんですが、公開することそれ自体には・・・。

近藤: インタビューって、私のような特にその分野に関して知識を持たない人が見る場合、ハードルを低くしてもらってるようで好きなんですけど。

米谷: インタビューなら比較的気軽にできそうなので、本学でもちょっと考えてみたいと思います。本学では図書館ニュースというのを毎月発行しているのですが、紀要に掲載された論文の紹介記事を毎号載せているんです。http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/publication/librarynews/librarynewsindex.html。「論のくちび 理のむすび」というやつ。これとコラボでインタビューをやってもいいなと今思いついたところ。紀要はリポジトリで公開していますし。

永井: 何かインタビューの他に、アイデアはありませんか? ちなみに当館は、図書貸出しのしおりの裏に、OAWの広報を書くという非常に地味なことをしようと思ってます。

谷本: しおり、いいですね～。グッツの配布は、ぜひやりたいです。

光森: しおり裏ならすぐできそうですね!

米谷: なんかOAWと言われても、学生も教員も別世界…という感じなんです。みなさんの大学はそんなことないですか? それとも私がそう思っているだけなのかもしれないのですが。

谷本: 米谷さんと同じようなこと、去年のインタビューでも感じました。> 別世界

近藤: 言葉、ご存じですかねえ。それすらも分からないです

谷本: 去年の突撃インタビューで、先生に、"Open Access"ご存知ですか? って聞いても、キョトンとされて。

米谷: その辺の意識というか、もっと論文の入手を身近に…というところからやっていかないと orz と思ったりしています。

谷本: 途中でこれはいかんと思って、CiNiiご存知ですか? に変更しました。CiNiiで本文が見られるのがOAなんですよーみたいで紹介しました。

近藤: あ、よく使っておられるものを例に出すのは、絶対分かっていただきやすそうですね!

米谷: それはいいですね。グッドです! うちでも使わせていただきたいと思います。

永井: CiNiiは機関別定額制の場合、有料だけど学内利用者は無料で見れるという論文もありますね。その辺の区別も押さえとく必要がありそうですね。

谷本: 今年は図書館内にあるデータベース用のPCに、ポップカードをくっつけて、「本文見られるのはOAだよ!」みたいなアピールをしてみたいなと思いました。あ、データベースを一括りにしてしまうのは間違いですけど。

永井: CiNiiを基点とした広報戦略を考えるなら、いっそCiNiiのトップページでそういうのしてくれたらうれしいですね。今日はNIIの方はいない・・・

谷本: あ、でもCiNiiの、検索結果の一覧表示に「オープンアクセス」という言葉が使われてるのは、認知度アップになってると思いますー。

永井: そうですね。でももっと大々的に、Googleみたいに、CiNiiのロゴをOAW風にするとか。そのアイデアを全国の大学図書館から公募するみたいな。なんか飛躍してきたぞ・・・

谷本: おもしろいーww > ロゴ

永井: 商店街のお祭りでも主催者側と通行客で温度差のあるものってあるじゃないですか。妙にしらけるやつ。OAWって先生方にとってやっぱりそんな感じなんですかね。

標葉: 多分、そもそも知らないという人が多いのではないかなあと。

永井: では、やはり谷本さんのアプローチは有効ですか?

標葉: Open Access、Open Archive、リポジトリ、よりもCiNiiの方が研究者にとっては馴染みは深いかなと思います。言葉として。

永井: そういえば、近藤さんの奈良先端大は、何かイベントをされるんじゃないかなかったですか?

近藤: あ、やります! うちのところ、学術雑誌掲載論文のコンテンツをちょっと最近集め始めまして、けっこうみなさん許諾をくださるので。(なんかくれて図書館が言ってるから、ご協力いただいているだけかもしれないのですが)「反応なかなかいいなあ、何かやろうOAW」という流れになりました。そんなところにDRFの「各種ワークショップ・イベントへの講師派遣のご案内」が来て講演会をしよう! となりました。

永井: 協力機関ってあるんですか?

近藤: いえいえ、主催がうちで、後援がDRFさんです。

永井: へえー。すごいエネルギーですね。

近藤: あ、でもほんとにDRFさんだよりというか。広報はもちろんしますが来てくださる先生にご講演をお願いするという形です。

永井: 光森さんの大阪府立大は、これまでOAWの活動って何かされました?

光森: 去年、いただいたポスターを貼ったくらいですね。実を言うと今年も何も予定していなくて;; 皆さんそうだと思うんですけど、リポジトリ以外の業務もあるじゃないですか。できればそちらの負担にならず(つまりあまり手間がかからず)、かつ、そこそ目立つネタがあるといいなと。

永井: ILLで教員に送る封筒にちらしをいれるってのがありますね。あれなんか非常に簡単に効果的かと。あるいは食堂三角スタンドとか。

近藤: 簡単で且つ、興味持ってくれた人に後から「先生、興味持ってくださいましたよね～」と言えるのは、やっぱりアンケートですかねえ。

世界中のOAフレンドと情報やアイデアを共有しよう!

openaccessweek.org

OAW本家のSNSサイト。世界中の活動をチェックできる。アカウントを取得すれば、世界のOAフレンドと気軽に交信できるよ。

Asia: Open Access Week 2011

アジア地域のOAWイベント情報を共有するWikiページ。イベント開催予定の機関はぜひアップしよう。

Open Access Week in Japan

OAWの国内まとめサイト。各機関で開催予定のイベント情報やグッツなどをここで共有しませんか。oaw@lib.hokudai.ac.jpにお寄せください。

Twitter

ハッシュタグは世界共通の#oaweekで。どんどん発信していきましょう。

まだまだ間に合う

OAW2011素材募集中!

募集期間: 平成23年9月1日～10月23日

(OAW期間中に作品人気投票します。記念品あり!)

製作方法: PowerPoint等、ファイル内容の改変・加工が可能な一般的なソフトウェア(サイズは自由)。動画等のマルチメディア作品の場合はとくに形式は問いません。

(ルール: オレンジを基調色とし、OAWロゴまたは「OAW」「oaw」等の文字をどこかに入れてください)

送付先: oaw@lib.hokudai.ac.jp

お送りくださった作品は、OAW2011日本公式サイトに掲載し、誰でもダウンロード・改変・再利用できるものとします。

永井: 標葉先生はマンガの科学表象というような研究もされているとちらりと耳に挟んだのですが、昨年はマンガや紙芝居でOAを語るって企画もありました。この辺の効果ってどんなものでしょうかね??

標葉: 教員の目に触れやすいところに置けるのであれば、チラシよりも目に留まりやすいかなあと思います。今おっしゃってた食堂のスタンドとか、またはトレイマットとかだと読むかもです。

谷本: 去年のOAWで、図書館のカウンターに三角スタンドを置いていたら、興味を持ってくれた学生がいました。

標葉: トレイマットが紙芝居というか、4コマだったら、(私なら) まず読むw

永井: トイレマット! 新手の技!

近藤: 4コマは読みますね! (笑)

谷本: あ、私も読みますー> 4コマ

光森: (永井さん> それ私も一瞬読み間違えたんですが、ト・レ・イ・マットですよ)

永井: なんです、トレイマットって?

標葉: えーっと、マクドナルドとかで、トレイの上に乗せる紙あるじゃないですか、あれです。

近藤: トイレマットも絶対見ますが笑

標葉: トイレはいいかもw

永井: 完全にトイレロールと勘違いしてました。

近藤: トイレトペーパー作ります? OAWの。(笑)

永井: こういうのセレンディピティとかいうんですね。

標葉: ww トイレの個室の壁に貼ってあっても見ますね。多分。

近藤: あ、見ます。それ、うちやります (今決定)

谷本: 紙芝居、すごく面白かったんで、あれがトイレに貼ってあったら、絶対読みますー。

光森: 全部の個室に入らないと読めないようにするとか。

永井: 今年のOAWは研究棟のトイレをターゲットにしましょう。

谷本: しおりも、続き物にしたらどうでしょう? 全種類集めないと、全体が読めないとか。

永井: なるほど。しおり以外に何かアイテムはないでしょうか?

谷本: OAWだけ、やたら目立つ開館カレンダーとか。

光森: 小さいサイズで10月だけの開館カレンダーを作って、裏に広告つけるとか。

谷本: うちのOPACの近くに裏紙を使ったメモ用紙を置いているのですが、OAWの間は、裏紙じゃなくて、裏はぜんぶOAのロゴの入ったメモ用紙を置いておくとか。「裏」ばかりですね。

永井: 「裏」はひとつのヒントになりそう。街中で背中に張り紙つけてあるく広告の人が昔いましたけど、あれも「裏」ですね。

谷本: サンドイッチマンのように、両面ではなく、裏だけなんですか? 笑

永井: 小津の映画でそんな描写があったような。あ、皆さん、そろそろお開きの時間ですが、最後に一言ないでしょうか?

谷本: うちでも出来そうなアイデアもあって、今年のOAWは去年よりももうちょっとアピールできそうですーへへ

近藤: トイレとか裏とか、なんだか簡単に実践できそうな方法を学びました! お金もかかりませんし、今年はやります!

標葉: リポジトリ支持者として人知れず応援しておりますw

谷本: 標葉先生のようなお考えの先生がいらっしゃるのは、とても心強いです!

光森: 今年はポスター以外にも何かやりたいと思っていたので、たくさんアイデアをいただきました。ありがとうございます!

永井: ちなみに、10月23日までOAW素材募集してます。ぜひ今日の座談も参考にしていただきながら、応募を検討してくださいませ。> 読者の方。トイレロール、絶対大賞だと思いますよー。(完)



海外のOAWイベントを覗いてみよう

かの「破壊的提案」の作者スティーブン・ハーナッドが、昨年「Publish or Perish」という紙芝居をアップしているわね。絵がとってもキュートよ。(1)

ジョージメイソン大学では、メイソン像がOAファッションに様変わり(写真)。大胆な行動にでたものね。その仕掛け人であるクラウディアさんから、今回月刊DRFの読者にメッセージをもらったわ。

活況なのはアフリカね。

ガーナでは昨年に引き続き、Biomed Central主催のOpen Access Africa 2011が開催されるそうよ。

ケニアのジョモケニアアツタ農工大(JKUAT)で開催された学生参加のショーイベントも見逃せないわ。ステージを歩くOA大使がモデルのようにきれいわ。これはミスOAなのかな?(2)

この大学は、なんとOAのテーマソングまで作ってるらしいの。しかもラップ調。PVの凝り様も半端じゃないわ。(3)

時期もテーマカラーも重なるハロウィンにあやかって、大胆な仮装を試みるプレトリア大学(南アフリカ)の例も興味深いわね。(4)

アフリカにとってOAは他のどの国よりもアクチュアルな問題ですものね。日本もこの熱気にあやからなきゃ。

"The open access movement is an exciting initiative to be part of here at George Mason University! We have some faculty who have been publishing in OA journals or actively participating in digital humanities endeavors for a number of years. Others are not as familiar with open access, so we believe it is our responsibility, as librarians, to educate faculty, staff, and students about these resources and this important publishing option. International Open Access Week provides a wonderful opportunity to share ideas, encourage one another, educate our community, and celebrate the barrier-free availability of scholarship!"

(Claudia, George Mason University)



▲ George Mason University 2010

(1)<http://www.openaccessweek.org/video/publishorperish-1>

(2)<http://www.openaccessweek.org/photo/jkuat-oa-ambassadors>

(3)<http://www.openaccessweek.org/video/open-access-theme-song-for>

(4)<http://www.openaccessweek.org/photo/susan-veldsman-elsabe-olivier>

次号
予告

● DRF主催 機関リポジトリ担当者研修 レポート

初開催の中堅担当者研修とは!? / 応募殺到!! 第2回新任担当者研修

● 今年もOpen Access Week 実施中

月刊DRFでは、みなさまからの便りをお待ちしております。 gekkandrf@gmail.com

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/> 月刊DRF第21号 平成23年10月3日発行 デジタルリポジトリ連合